

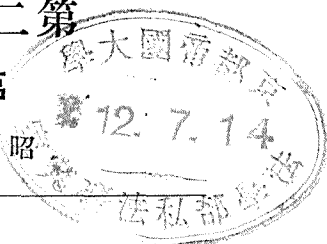
(大正五年四月六日第三種郵便物認可)昭和十二年六月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲 學 研 究

第 二 十 二 卷 第 七 冊

第 二 百 五 十 六 號

昭 和 十 二 年 七 月 一 日 發 行



マクス・シェーラーの政策論と政治論……………

文學士 田 中 熙

アリストテレスに於ける認識論的思想の

發展 (承前)…………… 文學士 藤 井 義 夫

自然數論の無矛盾性證明 (承前)

—— G・ゲンツェンの業績 ——

文學士 近 藤 洋 逸

京 都 帝 國 大 學 文 學 部

京 都 哲 學 會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
- 一、毎年公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	天野貞祐
文學士	岩井勝二
文學博士	植田壽藏
文學士	臼井二尙
文學博士	小島祐馬
文學博士	木村素衛
文學博士	九鬼周造
文學博士	田邊元
文學士	中井正一
文學士	西谷啓治
文學博士	野上俊夫
文學博士	羽溪了諦
文學博士	波多野精一
文學士	服部英次郎
文學士	久松眞一
文學博士	本田義英
文學博士	山内得立

# 前 號 目 次

美の深さ……………文學博士 植田壽藏

カントの先天總合判斷の最高原則について（承前）……………文學士 大西友太

宗教的自覺……………文學士 片山正直

自然數論の無矛盾性證明……………文學士 近藤洋逸

——G・ゲンツェンの業績——

告 會

- 一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 一、會員ニテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、前金切レノ場合ハ帶封ニ「前金切」ノ印章捺捺致スベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介ノ新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

定 規 文 註

- ◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告ニ關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替京都三九三一番大阪三九三一番東京三九三一番) 内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◆ 特に請求書及領收書等必要する場合は郵券參錢御送付下され度候

價 定

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金	四拾錢	金	壹錢
六冊	冊	金	貳圓四拾錢	不	受
十二冊	冊	金	四圓八拾錢	不	受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十二年六月廿五日印刷納本 行 第二百五十六號 第七十二册  
昭和十二年七月一日發

京都帝國大學文學部内

京都哲學會

編輯者 右代表者 須磨勤兵衛

發行者 須磨勤兵衛

印刷者 須磨勤兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

不許複製 禁轉載

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座大阪三九三一番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入 内外出版印刷株式會社

賣捌所

(東京) 寶文館 東海堂  
(大阪) 寶文館 上田屋  
(神戸) 寶文館 盛文館  
(京都) 寶文館 大瀨書店 參文社

山内得立著

# 體系と展相

定價三〇〇  
送料一三三  
菊判四八〇頁

本書は博士が學窓を出て間もない頃より幾十星霜の間研究思索せられた成果の中から、特に勝れた十五篇の論文を選び、新たに本書のために書かれた雄篇「混合の論理」を加へて一卷に収録したものである。博士の思索の深さと卓抜なる問題の捉へ方とは、その文體の美しさと相待つて、既に萬人のひとしく承認してゐるところである。本書を讀む者は聊かも晦澁といふ感なく、不識不知の間に問題の核實に惹き入れられるであらう。山内博士は我が國の哲學界に全く独自の立場を開拓した人である。新カント學派の旺盛な時代に既に獨逸學派の客體的立場に着目し、此の立場を徹底せしめつゝ、更に希臘古典哲學に進み、こゝに新らしき意味を見出して極めて獨創的な體系を樹立せられた。本書が繙く者は博士の歩まれたこの道を辿り得ると同時に、現今の哲學にとつて最も重要な問題の一つ、即ち體系的なるものと歴史的なるものとの關係の問題に導かれるであらう。「今日の研究が又遙かなる未來に影を引くことを望みつつ、この書をなした」とは、博士が本書の序文に於ける述懐であるが、洵にこの論文集は限りなき未來性を約束する幾多の問題を讀者に展示するものと言ふべきであらう。

## 植田壽藏著 藝術史の課題

定價二〇〇  
送料一三三

(大正五年四月六日)昭和十二年六月廿五日印刷納本(毎月一回)  
(第三種郵便物認可)昭和十二年七月一日發行(一日發行)

西哲叢書 田邊 元監修

# アウグスティヌス

松村克己著

現代に於ける思想の無力、思想の貧困と云ふ事が屢々語られる。併し事實は正しくその反對である。思想は過剰であり、人々は思想の力を信じてゐるが故にこの嘆きがあるのである。問題は生命を賭して思想を生きる人がない事である。眞理を語るのみではなく之を身を以て支へ證する人の少い事である。千五百年の昔、ロマ帝國の没落を眼前にしつゝ、新しき時代の産みの苦しみを親しく身に負ふて惱み思索した人、中世の歴史を叫び出した聖アウグスティヌスは、右の様な意味に於て最も深く歴史と永遠との底を潜つて眞理を生きた一個の天才と云へよう。その取上げた問題に或は時代の制約を受けて現代の其とは異るとするも、此の人の巨大な魂の氣息を聞く事は、現代に生きる吾々にとつて多くの暗示を含んでゐるに違ひない。

本書は我が國に於てその名の語らるゝ事屢々にしてその文獻に乏しきアウグスティヌスについての全般的な最初の叙述である。

定價一三〇 送料一四

近刊

木村 素衛著 **フイヒテ**  
土井虎賀壽著 **ヒユーム**  
野田 又夫著 **デカルト**

哲學研究 第二百五十六號 定價金四拾錢 郵税金壹錢

東京市神田區丸太町 替振 京都一三二五番  
東京市神田區駿河臺 替振 東京三五九番

# 弘文堂

